みやこ町図書館だより　2012春

ふくろうの森通信



発行　２０１２年4月1日　第１６号

赤ちゃんに「ことば」の喜びを

昨年の８月から始まった、ブックスタートを記念して２月２９日（水）サングレート・みやこにて、『きりん文庫かすが代表』徳永明子（とくながはるこ）氏を講師に迎えて講演会が行われました。

わらべうたや、読み聞かせ、また自らの体験などを交えて、とても丁寧に「ことば」を伝えることの大切さを語ってくださいました。





絵本を、ただ読んで聞かせるのではなくて、心を込めて語りかけることで、その「ことば」を体で感じてもらうことが一番大事だとおっしゃっていました。

また、心は「ことば」でできているという言葉がとても印象的でした。

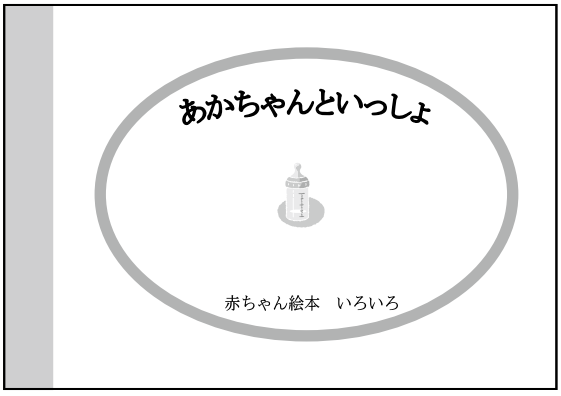
参加者の皆さんも熱心にお話に聞き入っていました。



図書館では、赤ちゃんにおすすめの絵本のリストを置いています。

「赤ちゃんにどんな絵本を読んだらいいのだろう？」「赤ちゃんから楽しめる絵本はあるの？」と思われたら、本を選ぶ参考にしてみてください。

また、リストに載っている本の他にも、たくさんありますのでお気軽におたずねください。



みやこまち　いどうとしょかん

「にこにこ号」が走ります

移動図書館車の愛称とデザインを考えてくれたのは

【愛　称】　吉竹（よしたけ）　悠真（ゆうま）くん（久保小学校６年）

【デザイン】　浦邉（うらべ）　あおいさん（黒田小学校４年）

みなさんからたくさんのご応募いただき、
本当にありがとうございました。





【にこにこ号】



【今までの移動図書館の風景】

みやこ町の移動図書館は、図書館から遠い地域の子どもたち、自分で図書館にやって来ることができない子どもたちに、手の届く所に本のある環境を作るため、みやこ町内の一部の保育所・小学校での貸出を行っていました。今までの移動図書館は専用の車がなく、約 450～600 冊程度の資料をコンテナに入れワゴン車で保育所・小学校に運んでいました。

この春より、移動図書館車『にこにこ号』が、町内の各保育所・小学校などをまわることになりました。『にこにこ号』には、約 1,500 冊の本を載せることができます。

みなさんどうぞ楽しみにしてください。

『にこにこ号』出発式





３月６日（火）、サングレート・みやこで移動図書館車の出発式が行われました。

テープカットの後、実際に地元保育所の園児たちに本の貸出をしました。園児たちは、初めての移動図書館車にとても興味深そうでした。嬉しそうに、たくさんの本を借りてくれました。

これからも、にこにこ号をよろしくお願いします。

としょかん司書お勧め

チェック本 ～春になったらよみたい本～

【一般向け】

『私は虫である』

熊田　千佳慕（著）　求龍堂



「あせっても春は来ないし 忘れていても春は来る…」等々、生きる希望がわくメッセージ集。細密画家・熊田千佳慕の未発表「語録ノート」を中心に、その細密画も掲載されている。（2010）

【一般向け】

『小笠原』

三好　和義（写真）　朝日新聞出版



世界遺産となった小笠原群島の写真集である。その景観は雄大で美しく、未知の自然である。その自然のなかで非日常の世界を体験してみたいと思う写真集である。（2011）

【児童向け】

『だって春だもん』

小寺　卓矢（写真・文）　アリス館



まだ森は雪に覆われていても、草花や動物たちは知っている。
写真と文を通して、春が来るのを待ち望んでいるのが、伝わってくる本。（2009）

【児童向け】

『ハグくまさん』

ニコラス・オールランド（作）　落合恵子（訳）

クレヨンハウス



ハグとは「抱きしめる」という意味。愛情深いくまさんは、なんでもハグしたくなる。ある日、生まれて初めてハグしたくないもの、木を切りに来た男に出会ってしまった。どうしたらいいんだろう……。心の中があったかくなり、やさしい気持ちになれる絵本。（2011）

レファレンス

あなたの調べもの　お手伝いします。

【質問】
犀川帆柱の蛇淵の滝にある「おむく（小椋）の墓」についての伝説内容と、そこで死んだと言い伝えられている娘の年齢、名前などを知りたい。

【回答】
・「郷土誌さいがわ」第 24 号　・「郷土誌さいがわ」第 19 号　・「郷土誌みやこ」第 2 号
・「犀川町誌」　・「ものがたり京築」

木をくりぬいて、椀や盆を作る「小椋（おぐら）」という姓の一族が帆柱山中に住んでいた。一族の 1 人小椋左次右衛門が苅田の金山に出稼ぎに行ったまま 1 年、2 年と帰ってこなかった。帰りを待ち望んでいた娘は、やっと父親から連絡があり出かけるが逢うことができず、悲しみ、蛇淵の滝壺に身を投げて死んでしまった。その後、滝の近くの庄屋の家に現れた年齢にして 16・7 の娘が「滝に住む大蛇」であると名乗ることから、小椋の娘が蛇淵の滝の大蛇に化身したのではといわれている。娘の名は「おふち」これは方言で「おふじ」ではないかという説もある。